

トーク&トーク

情報プロフェッショナルシンポジウム 10周年企画

インフォプロの再認識と再定義

10月11日(金) 10:00~12:30 (A会場)

この10年で情報入手行動は大きく変化してきた。検索エンジンや各種データベースの進化も相まって、誰でも簡単に情報を収集できるようになったが、その反面、情報が溢れ玉石混淆の様相を呈している。そんな中、必要な情報の取捨選択が重要であるのは言うまでもなく、その役割を担うサーチャーなど専門家の存在意義は依然として非常に大きい。個人による情報収集活動が進み、企業の情報部門の縮小など厳しい局面を迎えているケースも少なくない中で、情報を扱う専門家を再認識することをテーマとする。

ここでは情報の管理に携わる専門家に過去10年を振り返って頂き、何をどう変えたのか、何がどう変わってしまったのか考察すると共に、この先何を引き継ぎ、何を变えていかなければいけないのかを占い、インフォプロの現状および将来像を考える。

話題提供者

川本 敦子 氏((株)東芝 知的財産部)

この10年間で、サーチャーの業務がどう変化していったか、また、今後どういった展開が求められるかを具体的に考察し、情報の扱い方がどう変わっていくかを読み解いて頂く。

原田 智子 氏(鶴見大学 文学部 教授)

サーチャー試験の傾向について振り返り、その傾向によって、インフォプロに求められる能力の変遷について解説して頂く。

小野 亘 氏(一橋大学附属図書館)

大学図書館の司書の立場から、文献の検索・入手行動のあり方や変化について概説頂く。また、ディスカバリサービスやリンクリゾルバなどの普及によりエンドユーザーの利用が自己完結する中で、“検索”手法の教育の必要性について改めて考察して頂く。

コーディネーター

林 和弘 氏(科学技術・学術政策研究所)